



熊本県西原村の視察

Observation visit to Nishihara Village in Kumamoto Prefecture

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

### Table of Contents Vol.52 (May, June 2016)

- ・ 熊本：熊本地震被災者支援
- ・ 丹波市：丹波市町づくり共同事業
- ・ 東北：東日本大震災被災者支援事業
- ・ バングラデシュ：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ ミャンマー：災害危険地域における防災能力向上支援  
USAID の能力強化支援プロジェクト
- ・ フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
  
- ・ Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
- ・ Joint Project with Tanba City on Community Development
- ・ Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
- ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in  
Urban Areas of Bangladesh
- ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
- ・ Myanmar: Project on Capacity Building for DRR  
Project on Myanmar Consortium for Capacity Development  
on Disaster Management
- ・ Philippines: Project on DRR Education with School- Community Linkage in Cebu



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>

熊本地震被災者支援

【ジャパン・プラットフォーム】

熊本地震被災者支援事業をスタート

2016年6月より、SEEDS Asia は宇城市社会福祉協議会が設置する生活復興支援ボランティアセンターの運営支援事業を開始しました。

初めに、社会福祉協議会の職員と SEEDS Asia による生活復興支援ボランティアセンターの概要や方針についての協議を行いました。5月までボランティアセンターでは、被災住居の片付けに対するボランティア派遣に重点を置いており、6月以降は避難所に滞在する被災者への支援に重点を移していく方針としたため、より避難所ニーズに基づいた具体的な支援活動計画を検討すべく、宇城市内6カ所の避難所でのヒアリング調査から着手することになりました。その結果、昼間に避難所で過ごす避難者に対して、自ら足を運んで参加するカフェや体操などのプログラムは既に実施されていましたが、体調等に配慮しながらも支援者側から声を掛け、話し相手となる傾聴が求められていることが分かりました。そのため、今後、傾聴の養成講座を修了したボランティアとともに、被災者へ寄り添う支援を行う計画です。

一方、宇城市と社会福祉協議会は、被災者に対するソフト面での支援に関して協議を行う機会が設けられていなかったことから、6月11日に、宇城市危機管理課と SEEDS Asia が共同で「仮設住宅等支援に関する意見交換会」を開催しました。宇城市関係各課、社会福祉協議会、外部支援団体から計15名が参加しました。この意見交換会では、宇城市の仮設住宅建設・支援の現状や、東日本大震災での仮設住宅支援等の課題について共有し、その内容を踏まえ、今後の宇城市における仮設住宅や在宅被災者に対する支援の在り方について議論しました。参加者アンケートでは、「他機関の意見や状況把握ができた」「仮設住宅で想定される問題・課題が把握できた」という意見が多く、「大変有意義」と回答された方が50%、「有意義」と回答された方が50%と満足度の高い意見交換会となりました。



宇城市役所にて、仮設住宅等支援に関する意見交換会を実施



熊本県西原村の視察

【ご寄付のお願い】

SEEDS Asia は、以下のCANPAN 決済サイトにて「熊本地震被災者支援専用寄付」を受け付けています。被災地では、長期的な支援を必要としています。皆様方の温かいご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

<https://kessai.canpan.info/org/seedsasia/donation/101408/>

丹波市：丹波市まちづくり協働事業

【丹波市まちづくり協働事業 /CWS Japan (UMCOR)】

第2回防災指定校連絡会議の開催

2016年5月25日、丹波市教育委員会、防災指定校の4校の代表者と SEEDS Asia が集まり、第2回防災指定校連絡会議を開催しました。

第2回目に当たる今回の会議では、各校における今年度の防災教育についてそれぞれ発表するとともに、地域との連携体制づくりの方針について議論を行いました。

その後、各校での具体的な防災教育の取組についてより検討を深めるため、6月には、SEEDS Asia のスタッフが各校を訪問し、教員研修や防災授業の内容や実施日について調整を行いました。この調整に基づき、7月以降、順次、各学校で SEEDS Asia もかかわりながら、防災教育の実践を実施していく予定です。

また、6月下旬にはフィリピン・セブからの本邦研修において、8月下旬には南三陸町・気仙沼市からの視察研修において、丹波市を訪問し、お互いの防災教育やコミュニティ防災の実践について情報共有を行うことができよう、調整を開始いたしました。今後、各事業地との交流を進めながら、丹波市においても防災教育を推進していきます。



第2回防災指定校連絡会議の様子

東北：東日本大震災被災者支援事業

【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

劇団「夢の海」メンバーの新宮市視察



2016年5月10日から12日まで、SEEDS Asia が立ち上げた町民劇団「夢の海」メンバー3名が和歌山県、新宮市を訪問しました。

新宮市との縁は古く深い唐桑。1300年前、蝦夷を平定した時の天皇は、熊野の御神体を分霊し、船団を組んで東北に向かいました。その船団の大將が紀伊国草葺原の県主、従三位中将鈴木左衛門尉穂積重義であり、劇団の顧問である鮎立古館の鈴木伸太郎さんの祖先です。

多賀城にいた鎮守府将軍大野東人は白馬17騎の諸郷主を召集して、この神輿を出迎え、勅使から天皇の勅書を受けた後、どこの地に神様を祀るか神意を伺ったところ「磐井郡鬼首山(後の室根山)は、往古、日本武尊が鬼神を征服し、始めて皇業が行われた地なので、この峯に鎮座して天下長久を守り、人民を利益せよ」とお告げがありました。そしてその地に神社を建立したのです。

さらに1675年に鮎立古館の先祖鈴木勘右衛門は、溜め釣り鯉一本釣りに来ていた紀州の舟5艘と漁師約70名を迎え入れて、三陸沿岸にこの漁法を導入することを試みました。その時、周囲からは村の生活を脅かすものと強く反対されましたが、末には必ず村の重宝になると仙台藩に訴え続け、村の子どもにまで習得させることでこの漁法が定着することとなりました。その後の三陸地方の漁業の発展を考えると、これは画期的な出来事であり、唐桑の最も誇りとするところ です。

この縁があり、東日本大震災の時は新宮市からの支援が真っ先に入り、伝統芸能を披露することで、唐桑のコミュニティが立ち上がるきっかけになったのでした。

その年の8月25日午前9時に発生した大型の台風第12号では、この台風に起因する豪雨により、特に紀伊半島(和歌山県・奈良県・三重県)において被害が甚大であったため、唐桑の人達は食料や物資を積んで新宮市に支援に向かったのです。

今回の視察の目的は、この歴史を演劇にし、新宮市で上演する準備のためでした。遠く離れても、災害のたびに絆が深まる唐桑と新宮。視察団の歓迎会は市長、県議会議員、市議会議員、職員と賑やかに行われ、両者の関係は更に深まりました。しかし、震災を経験した唐桑の人間にとって、南海トラフによる地震が起きるであろう新宮市の津波への備えは心配でなりません。小・中学校は海拔の低い所にあり、背後の山は急こう配なのです。案内される場所場所で、どこに避難所があるのか質問し確認しました。

今後は防災教育の面からも新宮市との交流が必要だというのが、劇団「夢の海」の参加者の意見でした。来年3月に新宮市で上演する演劇でも、災害をテーマの1つにすることで啓発を図ることもアイデアとして出されました。



新宮市の高台から海を臨む

## 【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

### オリエンテーションワークショップ開催

2016年5月16日、北ダッカ市 Mirpur 地区にある消防局のトレーニングセンターにて、市内36の区の区議会議員および女性議員を対象としたオリエンテーションワークショップを開催しました。ワークショップでは、SEEDS Asia の団体概要と事業概要の説明をするともに、消防局長官よりダッカ市が過去に経験した災害と災害時の住民レベルでの活動の重要性についてお話をいただきました。また、ワークショップの後半では、参加者同士でそれぞれの地区における問題や、行政、消防、住民など様々なステークホルダーの役割について意見交換を行いました。北ダッカ市の多くの地区に共通して、道路が舗装されていない、また、道幅がとても狭いため有事の際に車両が入れないという課題があります。こうしたハード面の改善を行政に求める声が多い一方で、その中でコミュニティレベルでの対策がいかに重要な意味を持つかが活発に議論されました。



ディスカッションの様子



ワークショップ後の集合写真

災害アセスメント調査開始

2016年6月より、BRAC大学とチームを組み、北ダッカ市の36区を対象にUrban Disaster Resilience Index (UDRI)による災害リスクアセスメント調査を開始しました。都市における災害レジリエンスを5つの観点(インフラ、社会、経済、制度、自然環境)から調査するUDRIは、北ダッカ市の各区および市全体における強みと弱みを明らかにし、その後実施していくコミュニティ防災活動の優先順位および活動計画を策定するためのベースラインとなる重要な調査です。また、区議会議員に聞き取りを行う中で、防災に関する知識や関心を高めてもらうことを狙いとしています。8月末までに36区すべての調査を完了する予定です。



UDRI 調査の様子



クライメート新聞編集委員会の様子

地域住民へのトレーニング開始

6月15日、16日、25日にSEEDS Asia バラナシチームはクライメートスクール5校周辺の地域住民を訪れ、雨期前の水害対策トレーニングの一環として、現時点での人々の防災意識やコミュニティでの防災対策、地域の問題点、さらに過去の災害などについて話し合う協議会を設けました。

バラナシでは雨季の大雨によって排水溝のつまりによる都市部での浸水や、ガンジス河の水位上昇による洪水が発生することがあります。住民は、起こりうる洪水に備えて、定期的な点検や詰まりの掃除、避難などについて準備や対策をする計画を進める必要がありますが、こうした防災活動を担当する組織がありませんでした。

こうした現状から、地域に既存の生活向上の役割を持つ住民グループや学校の通学バスドライバーに対して防災トレーニングを実施し、従来の活動と同時に防災活動にも取り組めるよう、能力向上を図ることとしています。今回の協議会を通じて、バラナシの現状分析だけでなく、今後活動していくメンバーの選定や、地域の防災への取り組みの必要性について理解してもらうことができました。現在は7月のトレーニングの準備を各地で開始しています。



コミュニティトレーニングの様子



インド

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

SEEDS Asia はインドのバラナシ市において「クライメートスクール」と呼ばれる、気象観測装置を設置し、気候変動教育/防災教育を地域住民と実施するプロジェクトを実施中です。5月、6月には下記の活動を行いました。

第一回 気候・防災子ども新聞編集委員会の開催

6月13日、バラナス・ヒन्दウー大学にて、第一回クライメート新聞編集委員会が開かれました。同編集委員会は、前号で報告されたメディアとの連携による防災啓発を目的としてSEEDS Asiaの提唱により開始したもので、メンバーにはクライメートスクールの校長先生や地元新聞Hindustan社の記者も含まれています。

同編集委員会で創刊号となるクライメート新聞発行について、発行時期や発行回数、新聞用のロゴなどについて話し合われました。この新聞には、生徒たちが自分で見つけた災害の記事、また、自動気象観測装置や大気汚染測定装置のデータはもちろん、生徒たちが市長や警察、周辺コミュニティの人々などに直接会ってインタビューを取るなどして作成する記事も盛り込まれる予定です。



ミャンマー

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 調査分析開始



1月5日から4か月に亘り、エヤワディ地域の全区にて実施していたCCRI（沿岸地域コミュニティの災害回復力調査）の現地調査が完了し、調査分析が開始しました。調査はエヤワディ地域の全26区を対象とし、ヤンゴン工科大学博士課程学生のエーエーカインさん、社会福祉救済復興省・復興救済局の職員及びSEEDS Asia・ミャンマー事務所の調整員を含めた調査グループで実施されました。10区の結果が含まれた中間報告書が既に提出されたため、調査に関わる協定に基づき、奨学金2,500ドル（合計5,000ドル）がエーエーカインさんに手渡され、エー・ミンヤンゴン工科大学学長並びにニヤン・ミッチョー土木工学部学部長が立ち会われました。最終報告書が7月下旬に提出される予定となっています。その後、最終報告書に基づいた活動内容を議論するため、8月に実施するステークホルダーを対象としたワークショップに向け準備中です。

(\* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)



エーエーカインさんへの奨学金の授与

### CDRI（気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ）に関する現地調査終了

CDRI（気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ）に関する調査がエヤワディ地域の域都であるパテイン市で実施されました。調査チームはダゴン大学地理学部の教授1名及び大学院生13名、社会福祉救済復興省・復興救済局（RRD）の職員及びSEEDS Asia ミャンマー事務所のスタッフで構成されました。現地調査は同市内に含まれる15区を対象とし、6月9日から19日までの間で行われました。調査分析の結果が7月中に完了する事を予定しており、その結果に基づいた活動内容を議論するため、ステークホルダーを対象としたワークショップを8月中に実施する予定です。



CDRI（気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ）に関する調査がパテイン市で行われている様子

### 防災ワーキンググループとの啓発教材の共同作成

SEEDS Asia はミャンマーで災害復興や防災に関わる国連や NGO のメンバーで構成される「防災ワーキンググループ」のメンバーとして、自然災害及び人災の防災・減災のための啓発パンフレットの共同作成に取り組んでいます。パンフレットには洪水、暴風雨、地震、火災の内容が含まれ、地域レベルでの災害に関する一般的な意識の向上を目的としています。政府関係者や配布の対象となる地域住民との協議をしたところ、「緊急時に飲み薬を使用するためには、どのような薬を飲むべきか、具体的に記載があったほうが良い」など、受益者からの意見を取り入れつつ、他団体と共に作成中です。



洪水と暴風雨に関するパンフレットの一部

### 避難訓練に向けた防災リーダーへの事前研修

ヤンゴン地区社会福祉救済復興省・復興救済局（RRD）より要請を受け、SEEDS Asia は、サイクロンを想定した避難訓練の事前トレーニングとして実施される地域防災リーダー向けの研修に講師として参加しました。コンジャンゴン区ラッコンコン村の防災リーダーの方々で避難訓練の運営役として参加することが決まり、彼らを対象とした防災研修が18日から19日までの間、同村で実施されました。運営役を務める防災リーダーはSEEDS Asia が設立した防災活動センターの委員会メンバーに加え、ラッコンコン村防災委員会、コミュニティ・メンバー、学校教員、消防署、赤十字ユースボランティアで構成され、事前研修を通じ、避難訓練の実施に備えました。SEEDS Asia は総合的な運営調整、自然災害が発生するメカニズムの説明並びに安全に関する助言を担当し、以前に作成された移動式防災教育の教材をうまく活用することができました。



研修参加者の集合写真

### ラッコンコン村にてサイクロンを想定した避難訓練を実施

6月20日から21日までの間、コンジャンゴン区ラッコンコン村にてサイクロンを想定した避難訓練が社会福祉救済復興省・復興救済局（RRD）と防災ワーキンググループと（DRRWG）の共同で実施されました。



今回は昨年度末まで JICA の草の根技術協力事業を通じて能力向上プログラムに参加していた同村の地域防災リーダーが、村民に対して避難訓練をリードして実施しました。SEEDS Asia は 3 年前から総合的な避難訓練の技術協力とビデオカメラを使用した撮影記録の業務調整を継続して行っています。避難訓練の記録については、防災意識の向上及び災害へ備えることの重要性を呼びかけることを目的として撮影され、今後の啓発活動に活用されていきます。



ラッココン村で行われた避難訓練の様子

### 防災活動センターをミャンマー副大統領に紹介

6月26日、H.E. Mr. Henry Van Thio ミャンマー副大統領兼国家防災委員長、H.E.Dr. Win Myat Aye 社会福祉復興省大臣、Dr. Ko Ko Naing 社会福祉復興救済局事務次官、U Soe Aung 社会福祉復興救済局・復興救済局長、内務省 U Aung Soe 少将、U Han Tun ヤンゴン地域 農業家畜・森林・エネルギー省大臣がラッココン村を訪れ、同村の避難シェルターおよび防災活動を視察されました。社会福祉復興救済局・復興救済局からの要請を受け、SEEDS Asia はラッココン村において設立した防災活動センターの紹介をすることになり、その防災研修、研修用教材に関する活動内容を副大統領に紹介しました（同防災活動センターは、JICA 草の根事業協力プロジェクトを通じて設立したもので、コンジャンゴン、ボガレ、ラプタ地区に設立し、地域防災リーダーの育成のため、防災教育、基礎的な消防知識、救済活動、応急手当、社会心理ケア、安全な住宅建設に関する研修を実施してきたものです）。副大統領への活動紹介の最後に、社会福祉復興救済省・復興救済局、コンジャンゴン地区行政局、区教育事務所、消防局、学校教員や村防災委員会を含めた「防災リーダー」、地域のグループの皆さんからのご理解とご協力に対し、SEEDS Asia からの感謝の意を伝えました。



ミャンマー副大統領に活動内容を紹介する SEEDS Asia

## 【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

### 防災教育推進校教員研修

5月16日～20日の5日間に渡り、防災教育推進校7校の教員総勢98名に対し、防災教育推進のための研修を実施しました。この研修は教員に対し SEEDS Asia が推奨する 21 の防災教育実践モデルを紹介し、各推進校教員の防災教育実践能力を育成すること、さらには防災教育の実践を通じて児童や生徒の災害に対応する力を養うことを目的としています。

#### 【21の防災教育実践モデル】

1	自然災害に対する備えや影響の軽減に関する講義とビデオ鑑賞
2	防災紙芝居
3	防災お絵描き、ポスター・スローガンづくり
4	防災に関連する歌
5	防災カード・ボードゲーム
6	防災に関する読書、新聞、オンライン・オフラインのニュース記事読み
7	防災に関する作文、天気日記、エッセイ執筆
8	被災者の体験談
9	防災に関する計算（算数・数学）
10	防災の伝統知
11	記念碑・メモリアルコーナーづくり
12	家族会議
13	土嚢づくり
14	タウンウォッチング
15	スクールウォッチング
16	避難用バッグづくり
17	応急処置
18	消火器の使用法とバケツリレー
19	非常時の調理
20	防災スポーツ大会
21	避難訓練

5日間、朝から夕方までタイトに組み込まれた研修プログラムでしたが、教員らは全ての防災教育実践モデルを楽しみながら学ぶことができました。この研修の前で実施した防災に関する知識テストでは、全体の平均正答率が67%から83%に上がったことから、教員が確かな知識を身に付けたことは明らかです。また、この研修ではコアチーム（8名）をはじめ、去る2015年10月に同様に研修を受講した防災教育モデル校教員ら（各モデル校より1名、計6名）も研修講師として参加し、推進校に先立って学び得た防災教育の知識と実践経験を活かし、研修参加者の前で堂々と研修講師の役割を務めました。この5日間の研修での学びが今後各推進校での防災教育の実践につながることを期待します。





教員研修最終日、参加者全員と笑顔で記念撮影



本邦研修前オリエンテーションの様子



教員研修：応急処置体験



教員研修：消火器体験

### 本邦研修のための事前オリエンテーション

昨年度に続き、SEEDS Asia は 6 月 20 日～ 29 日までの 10 日間にかけて協働パートナーであるフィリピン教育省の職員を日本へ招へいし、本邦研修を実施します。今回招へいするのは、今後フィリピンにおける防災教育の発展担い手となるフィリピン教育省本省、防災管理室の室長、教育省第 7 地方事務所の所長、また防災教育を融合したカリキュラム開発の中心となる、各防災教育推進校を管轄する教育地区事務所カリキュラム開発部の部長 5 名の、合計 7 名です。SEEDS Asia は 5 月 30 日、本邦研修参加者に対し、研修前オリエンテーションを実施しました。このオリエンテーションでは本邦研修の目的、内容、旅程等はもちろん、フィリピンとは異なる日本の文化・慣習、マナー等についても伝え、研修に対する心構えを高めてもらうことをねらいとしました。帰国後、参加者全員が日本で得た学びを活かし、本プロジェクトの目指す、地域との連携による防災教育の発展と継続的な防災教育の実現に向け、さらなる前進を遂げていくことを期待します。

## Kumamoto Earthquake

### Japan Platform

#### Project on support for people affected by Kumamoto Earthquake was launched

From June 2016, SEEDS Asia started the project on support for the operation of the Recovery Support Volunteer Center which is established by Uki City Social Welfare Council.

Firstly, SEEDS Asia had a discussion with Uki City Social Welfare Council about the overview and policy of the Recovery Support Volunteer Center. Until May, the Volunteer Center focused on dispatching volunteers to clean affected houses, and since June, the focus has been changed to the support for the affected people who have stayed in evacuation shelters. Therefore, the activity started with the conduct of hearing survey in six evacuation shelters in Uki City in order to create a concrete support activity plan which is based on the needs of evacuation shelters. According to the result, café and physical exercise programs have already been implemented for the affected people who spend daytime in evacuation shelters to participate if they want to, but there is a need for the listeners who will proactively talk to them while still considering their physical condition. For that reason, SEEDS Asia plans to work with the volunteers who received training in listening skills to provide the support that considers the feelings of affected people.

Meanwhile, since Uki city and the Social Welfare Council did not have a chance to hold discussions about life support for affected people, SEEDS Asia and the Crisis Management Division of Uki City collaborated to hold an exchanging meeting on support for temporary housing on 11th June. The meeting had fifteen participants from divisions of Uki city, Social Welfare Council and external aid agencies. In the meeting, participants shared about current condition of the construction of and support for temporary housing, issues on the support for temporary housing in the Great East Japan Earthquake, and based on those contents, they discussed future support for the affected people who are living in temporary housing as well as the affected people who are living at their home. According to a questionnaire to participants, there were many comments such as "Now I understand about the ideas and condition of other agencies", "Now I understand about the issues and challenges that may happen at temporary housing", and the meeting ended with high contentment as 50% of participants answered that it was "very meaningful" and 50% answered that it was "meaningful".



Implementation of the exchanging meeting about support for temporary housing at Uki City Office



Observation visit to Nishihara village in Kumamoto Prefecture

[Please help us raise fund!]

Your contribution to Donation for Kumamoto Earthquake Emergency Support can be made via the following website. The affected area is in need of a long-term support. We are looking forward to receiving your warm support. Thank you very much!

<https://kessai.canpan.info/org/seedsasia/donation/101408/>

## Tamba City

### Joint Project with Tanba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

#### The second liaison conference with appointed disaster risk reduction (DRR) schools

On 25th May, the second liaison conference with appointed disaster risk reduction (DRR) schools was held and attended by Tamba City Board of Education, representatives of four (4) appointed DRR schools and SEEDS Asia.

In this second conference, each school presented about disaster risk reduction (DRR) education at their school in this school year. Besides, there was discussion about the policy in building a cooperation system with local community in their school district.



After that, in order to deepen the investigation about activities of each school in (DRR) education, in June, staff members of SEEDS Asia had visits to the schools and coordinated the training for teachers as well as dates and contents of DRR classes. Based on the coordination, each school is going to implement the practice of DRR education sequentially from July with participation of SEEDS Asia.

Moreover, Tamba City will be visited by project staff members from Cebu, Philippines in their Japan Study Visit in the latter half of June, and people from Minami-Sanrikucho, Kesennuma in their observation visit in August, in order to share with each other the information about their practice of DRR education and community DRR. Coordination for each visit was started from May. SEEDS Asia is willing to promote DRR education in Tamba City to have the exchange with other project sites.



At the second liaison conference with appointed DRR schools

Mr. Onono Azumabito- the general of army base in Tagajo gathered seventeen white horses to receive the portable shrine (Mikoshi). After receiving Imperial rescript from Imperial messenger, he asked the Providence' s divine will about the place to worship the deity, there was an oracle that Mount Onikubi in Iwai District (now called Mount Murone) was where Yamato Takeru had started to rule after conquering the fierce god in ancient time, so that peak should be enshrined to protect permanence of the country and bring benefits to citizens, and then a shrine was built there.

Besides, in 1675, Suzuki Kan' uemon- an ancestor of Mr. Shintaro Suzuki welcomed five boats with seventy fishermen from Kishu who came to fish bonito by the method of reservoir fishing with poles, and he tried bringing this fishing method into Sanriku Coast. At that time, people strongly opposed, saying that it would threaten the life of the village, but he kept persuading Sendai domain that the fishing method would become a treasure for the village at the end and he even made the children learn it, which led to firm establishment of the fishing method. This can be considered as a groundbreaking happening for the development of fishing industry in Sanriku region and what Karakuwa is proudest of.

Because of this connection, when the Great East Japan Earthquake and Tsunami occurred, the support that came first was from Shingu City, and traditional art performance became a chance for community in Karakuwa to start.

At 9 o' clock on 25th August in 2011, the typhoon No.12 broke and caused heavy rain. Especially, the Kii Peninsula (Wakayama Prefecture, Nara Prefecture and Mie Prefecture) suffered great damage, so people in Karakuwa piled up foods and relief materials and sent them to support for people in Shingu City.

The purpose of the observation by the theatrical group is to prepare for the performance of the drama about this history in Shingu City. Although the two cities are far from each other, their bond is deepened through each time of disaster. The welcoming party for observing group was held and attended by the Mayor, prefecture councilors, city councilors, and the relationship between both sides has been deepened. However, people in Karakuwa are worried about the preparation of Shingu City for tsunamis as they have experienced. Elementary and secondary schools are located at a low height above sea level, and steep slope hills behind these schools made it hard for their students to evacuate. At the places they visited, visitors asked and confirmed where evacuation shelters were located.

Members of the theatrical group "Yume no Umi" commented that from now, exchange in disaster risk reduction education with Shingu City would also be necessary. There was an idea that disasters could be taken as one of the themes for the drama that would be performed in March next year to aim at raising awareness.

## The Great East Japan Earthquake

### UMCOR · CWS Japan

#### Observation visit to Shingu City by members of the theatrical group "Yume no Umi" (The Sea of Dream)

From 10th to 12th May 2016, three members of the theatrical group "Yume no Umi" (The Sea of Dream), which was started by SEEDS Asia and formed by community people of Karakuwa Town in Kesennuma City, visited Shingu City in Wakayama Prefecture.

Karakuwa has a deep ancient connection with Shingu City. 1300 years ago, after subjugating Ezo, the then emperor divided the Kumano tutelary deity' s body and formed a convoy and headed to northeast. The general of the convoy was Mr. Hozumi Shigeyoshi- the territorial ruler of Nagasa Fujiwara in Kii Province. Mr. Hozumi Shigeyoshi is an ancestor of Mr. Shintaro Suzuki, the advisor of the theatrical group.



Looking at the sea from a high ground in Shingu City



Group photo

**Urban Disaster Resilience Index (UDRI) Risk Assessment starts!**

In June 2016, with a support of BRAC University, SEEDS Asia started disaster risk assessment based on UDRI model with a target area of 36 wards in Dhaka north city. UDRI measures disaster resilience in five dimensions (physical, social, economic, institutional, and natural) and will allow us to see the strengths and weaknesses of each ward as well as the city as a whole. This assessment is going to be the project’s baseline for determining order of priority in community DRR activities and building an action plan. Besides, an interview is conducted for councilors to aim at increasing DRR knowledge and concern. All assessment of the 36 wards is expected to be completed by the end of August.



Discussion with a ward councilor

**Bangladesh**

**JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh**

**Orientation Workshop**

On 17th May 2016, SEEDS Asia held an orientation workshop for ward councilors and woman councilors of 36 wards in Dhaka north city. In the workshop, SEEDS Asia introduced overview of the organization and its projects while Director of Fire Service and Civil Defense in his presentation talked about the disasters that Dhaka city experienced in the past and emphasized the importance of community-level activities and mutual help at the time of disasters. In an open discussion in the latter half of the workshop, the participants discussed resources and challenges they had in their respective wards and role of various stakeholders in disaster risk reduction.

They shared their concerns and thoughts, pointing out a common infrastructure issue in many areas in Dhaka north city which is narrow roads and vulnerable buildings. In addition to infrastructural issues, the participants also actively discussed the importance of community-level countermeasures.



A participant sharing her view

**India**

**Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi**

SEEDS Asia is conducting a project in India for Disaster Risk Reduction (DRR)/Climate change education through involving local residents and schools in Varanasi. Five schools which were designated as “Climate Schools (CS)” have been installed with Automatic Weather Stations, Air Samplers and other equipment, and series of training are being provided.



During May and June, the following activities were held.

The first editorial board meeting of Student Climate Newspaper

The first editorial board meeting for the Varanasi Student Climate Newspaper was held on 13th June. As reported in the previous newsletter, this was initiated by SEEDS to raise awareness of DRR with collaboration of students and professional media reporters. This editorial board includes the principal of a Climate School and also a journalist from local newspaper "Hindustan". In the meeting, board members discussed publication timing, logo and circulation of the newspaper and so on.

This newspaper will contain the articles and stories collected by students and the data from Automatic Weather Station and Air Sampler installed in all Climate Schools. Moreover, the report of interviews with Mayor, polices and surrounding community people by students will also be incorporated in this newspaper.



Editorial board meeting

Training for communities started

As a part of the training to prepare for rainy season, on 15th, 16th and 25th June, SEEDS Varanasi visited five Climate Schools' surrounding communities and created an opportunity for community people to discuss the disaster history, disaster vulnerability and disaster management structure in their area, as well as their DRR awareness and preparedness.

In rainy season, floods can be caused by the rise of water level in Ganga, while in city area, floods can also happen because of poor drainage system. Therefore, people need to clean and check drainage regularly and prepare for the evacuation to avoid damage from floods, but there were no organizations to take charge of such activities.

Therefore, through DRR training for the community groups or school bus drivers, SEEDS Asia aims to improve the communities' capacity so that they can engage in DRR activities along with their existing activities to improve their lives.

The discussion in this training made participants understand not only the situation of their own area, but also the importance of the preparedness for disaster. Besides, members for future activities were also selected.

Currently, preparation for the training in each community and school area in July is in progress.



In the training for drivers



Myanmar

USAID MCCDDM Project:  
Myanmar Consortium for Capacity Development  
on Disaster Management

Coastal Community Resilience Index (CCRI) Survey started data analysis

Field survey on CCRI which was conducted in four months from 5th January is now completed and data analysis has been started. The survey which covered all 26 townships of Ayeyarwady Region was implemented by the research group consisting of Ms. Ei Ei Khine- a Ph.D student of Yangon Technological University, Relief and Resettlement Department (RRD) personnel and local project coordinator of SEEDS Asia Myanmar Office. Since the midterm report which includes data of 10 townships has been submitted, based on the Memorandum of Understanding on CCRI, 2,500 USD out of 5,000 USD scholarship for the research was awarded to Ms. Ei Ei Khine in the presence of Dr. Aye Myint- rector of the university, and Dr. Nyan Myint Kyaw-head of Civil Engineering Department. The whole analysis is planned to be completed by the end of July and a workshop on action planning for stakeholder based on the reports is expected to take place in August 2016.

(\*Consortium of MCCDDM: UNHABITAT/UNDP/ Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc.)



Scholarship awarded to Ms. Ei Ei Khine

Field survey of Climate Disaster Resilience Index (CDRI) Survey in Pathein is finalized

Climate Disaster Resilience Index (CDRI) survey has been conducted in Pathein city, the capital city of Ayeyarwady Region. The research team consisted of a professor and 13 master students from Geography Department of Dagon University, RRD personnel and local staff of SEEDS Asia Myanmar Office. The survey was conducted in 15 wards of the city from 9th to 19th June and analysis result will be completed in July 2016. A workshop on action planning based on the reports is expected to take place in August 2016.



CDRI Survey conducted in Pathein City

Collaboration with DRR working group on making pamphlets for public awareness

As a member of the Disaster Working Group consisting of UN organizations and NGOs in Myanmar, SEEDS Asia is engaged in drafting pamphlets of natural hazards and manmade disasters including floods, storms, earthquakes, and fires, aiming at raising public awareness of disaster prevention and disaster risk reduction at community level. The Disaster Working Group conducted an opinion survey to hear voices from community and the government.

During the discussion with governmental sectors and target communities, there were ideas that it's better to include the information of what medicine should be taken in emergency with clear instruction. Reflecting their ideas, SEED Asia is making the pamphlets together with other NGOs.



One of the finalized pamphlets on flood and storm

Preliminary training of trainers (ToT) for local DRR leaders prior to evacuation drill

Requested by Relief and Resettlement Department (RRD) in Yangon, on 18th-19th June, SEEDS Asia served as a lecturer in preliminary training of trainers (ToT) for local DRR leaders who were to implement the cyclone evacuation drill on 20th-21st June. Let Khoke Kone's DRR local leaders include members from the DRR Activity Centers which were established by SEEDS Asia, Let Khoke Kone village disaster management committee, community members, school teachers, fire department, and Red Cross youth volunteers. Through the preliminary training, they made preparations to implement the evacuation drill by themselves. In order to support them, SEEDS Asia was in charge of coordinating for the ToT and explaining mechanism of natural hazards and safety tips with the DRR education tools that SEEDS Asia made for Mobile Knowledge Resource Centre.



Group photo of the training of trainers

Evacuation drill in the case of cyclone was held in Let Khoke Kone village



On 20th and 21st June, cyclone simulation exercise was conducted by Relief and Resettlement Department (RRD) in Yangon in collaboration with DRR Working Group in Myanmar in Let Khoke Kone village in Kungyangon Township, Yangon Region. This time, the local DRR leaders who had participated in the JICA grassroots technical cooperation project implemented by SEEDS Asia until March 2016 played the leading role in implementing the drill for their villagers. For three years, SEEDS Asia has coordinated comprehensive technical cooperation and the photography/recording with video camera of simulation exercise (drills). The recording of simulation exercise aims at raising the public awareness and promoting the importance of disaster preparedness. The record of this year's drill is going to be used for relevant activities for those purposes.



SEEDS Asia explaining DRR activities to the Vice President of Myanmar



Evacuation drill in Let Khoke Kone Village

[SEEDS Asia introduced DRR Activity Centers to vice president of Myanmar](#)

On 26th June, H.E. Mr. Henry Van Thio- Vice President of Myanmar cum Chair of National Disaster Management Committee, H.E. Dr. Win Myat Aye- Minister of Social Welfare, Relief and Resettlement (MoSWRR), Dr. Ko Ko Naing- Head of Minister office of MoSWRR, Mr. U Soe Aung- Permanent Secretary of MoSWRR cum Director General of Relief and Resettlement Department (RRD), Mr. Aung Soe- Deputy Minister of Home Affairs and Major General and Mr. U Han Tun- Yangon Regional Minister of Agriculture, Livestock, Forest and Energy, visited Let Khoke Kone village and observed an evacuation shelter and DRR activities in the village. Thanks to the coordination of RRD, SEEDS Asia had an opportunity to introduce to the Vice President activities of the organization in the village, DRR training, and DRR education materials which are being used at DRR Activity Centre (DRRAC). (The DRRACs were established under JICA grassroots technical cooperation project in Kungyangon, Bogale and Labutta Township and provided training of trainers for DRR leaders in the areas of DRR education, basic firefighting knowledge, search and rescue, first aid, psychosocial care, safe housing construction).

 Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

[5-Day Capacity Building Training on DRR Education for Promotion School Teachers](#)

On 16th to 20th May, SEEDS Asia organized 5-day capacity-building training for a total of 98 teachers from 7 DRR Education Promotion Schools. The purpose of this training was to build capacity of the teachers in conducting DRR Education by introducing the teaching methodology of 21 DRR education practice models which the DRR education Core Team and SEEDS Asia are trying to promote. Furthermore, it aims to nurture the ability of the students in Promotion Schools to respond to various hazards and disasters, through the DRR education conducted by teachers.

[21 DRR Education Activities]

1	Lecture & Video Presentation on Natural Hazards Preparedness & Non-Structural Mitigation
2	Picture-Story Show
3	DRR Drawing and Coloring Including posters and slogan
4	DRR Jingle
5	DRR Card/Board Game
6	DRR Reading/DRR Reporting, Newspaper and Online/Offline News Reading
7	DRR Writing including Rain Diary, Essay Writing
8	Stories of Affected People
9	DRR Calculating
10	Indigenous Knowledge

11	DRR Memorial Corner Making
12	Family Meeting
13	Sand Bag for Protection
14	Town Watching
15	School Watching
16	Emergency Bag Making
17	Basic First Aid
18	Fire-Fighting (Bucket Relay)
19	Emergency Cooking
20	DRR Sports Festival
21	DRR Evacuation Drill



Training in Firefighting- in Five-Day Capacity Building Training on DRR Education for Promotion School Teachers

The training program was provided in a tight schedule from morning to evening in five days, but the participating teachers enjoyed learning the DRR Education models. The test result of the Knowledge Test conducted before and after the Training shows that the teachers' understanding of DRR increased from 67% to 83%. It is remarkable that eight Core Team members and teachers from DRR Education Model Schools (two teachers from each Model School) attended the training as lecturers. They carried out their lectures professionally based on their knowledge and experiences as preceding trainees of DRR Education Model Schools. The participating teachers' initiatives of DRR education are expected to be seen soon in each Promotion School.

[Pre-Departure Orientation Meeting: Japan Study Visit](#)

Following last year, Japan Study Visit is going to be held from 20th to 29th June. Officials of Department of Education (DepEd) in the Philippines are invited as SEEDS Asia' s project partners. This time, there are seven participating officials – Director of Disaster Risk Reduction and Management Service of DepEd Central, and Regional Director of DepEd Regional Office VII as the decision makers of DRR Education activities in the future, and Chiefs of Curriculum Implementation Divisions of Education Division Offices who are in charge of the DRR Education Promotion Schools and will be key persons to integrate DRR Education into school curriculum. On 30th May, SEEDS Asia organized a Pre-Departure Orientation Meeting for the Japan Study Visit. In order to elevate their readiness for the Study Visit, the purposes, contents and itinerary of this Visit, and the culture and custom differences between the Philippines and Japan were discussed in the Orientation. Hopefully all participants will leverage the lessons that they will obtain in Japan to achieve farther progress towards the development and continuous implementation of DRR education, which is also the goal of the project.



With all participants with all smiles on the last day of training



Pre-Departure Orientation Meeting for Japan Study Visit



Training in First Aid- in Five-Day Capacity Building Training on DRR Education for Promotion School Teachers